

シマツレサギソウ *Platanthera boninensis* Koidz の 食害による更新阻害

川口 大朗（東京都小笠原支庁 自然保護指導員）
向 哲嗣（東京都小笠原支庁 自然保護指導員）
宮川 五葉（東京都小笠原支庁 自然保護指導員）

要 約

小笠原諸島固有のラン科植物シマツレサギソウは、父島列島（父島、兄島、弟島）と母島列島（母島、向島）に分布している。母島列島では近年減少傾向が見られ、列島全体で20～30個体しか確認できていない。今回の調査により、食害による更新阻害の可能性が示唆され、保全対策が必要な状況が確認された。

I. はじめに

小笠原諸島は東京の南約1,000 kmに位置する海洋島であり、固有植物が多く生育している。しかし、この地域の植物はさまざまな人為的影響を受けており、個体数が少なく、生育地が限られている種も多い。特にラン科植物は盗掘などの影響もあり、多くの種が絶滅の危機に瀕している。

小笠原諸島固有のラン科植物シマツレサギソウ (*Platanthera boninensis* Koidz) は、父島列島（父島、兄島、弟島）と母島列島（母島、向島）に分布している。また国内希少植物種として、環境省レッドリスト絶滅危惧IB類 (EN)（環境省、2012）、東京都レッドデータブック絶滅危惧IB類 (EN)（東京都、2014）に指定されている。東京都レンジャーの調査によると父島列島においては比較的生育が安定している。一方で、母島列島においては過去に生育が確認されていた母島南部および妹島で現在は生育が確認されていないことから（星善男、私信）、近年個体数および生育地が減少している可能性がある。

筆者らのこれまでの調査において、母島列島において確認できている2つの生育地のうち、向島では個体数の増加が確認されず、母島では5年間で確認した全個体のうち半数近くに葉や花茎が齧られた跡が確認された。そのため、個体数の変化と食害状況について継続的な監視を行うとともに、保全対策に必要な情報収集を行った。本稿ではその結果について報告する。

Ⅱ. 調査方法

調査は、母島では 2011～2015 年、向島では 2009～2015 年の間に実施した。各島の調査方法を下記する。

母島においては、個体数と食害の調査を出芽の見られる 1～3 月に、開花結実の調査を 3～5 月に実施した。1～3 月の調査では、生育地の半径約 30m の範囲についてくまなく踏査し、個体数と食害等の有無を記録した。3～5 月の調査では、開花・結実個体数を記録した。ただし 2015 年は、4 月 4 日のみ調査を実施した。

向島においては、1 月下旬から 5 月上旬に 1～2 回調査を実施し、開花結実状況と食害等の有無を記録した。

Ⅲ. 結果

母島では、5 年間でのべ 97 個体が観察され、そのうち 46 個体において食害が確認された（表 1）。食害は、地際の葉や茎を齧り切っているようなもの（図 1）と、葉や花茎を齧り取っているようなもの（図 2）が確認された。開花個体については、2011 年に 3 個体、2012 年に 1 個体、2015 年に 2 個体が確認された。結実個体については、2011 年に 1 個体、2015 年に 1 個体が確認された（表 1）。

向島では、7 年間でのべ 11 個体が確認されたが、食害は確認されなかった。開花個体については、2009 年に 1 個体、2010 年に 1 個体、2011 年に 1 個体、2014 年に 1 個体、2015



図 1 地際の葉や茎を齧り切った跡



図2 葉や花茎を齧り取った跡

表1 母島におけるシマツレサギソウの生育状況

年	個体数	食害	開花	結実
2011	19	6	3	1
2012	14	10	1	0
2013	12	4	0	0
2014	32	9	0	0
2015	20	17	2	1

表2 向島におけるシマツレサギソウの生育状況

年	個体数	食害	開花	結実
2009	1	0	1	0
2010	1	0	1	0
2011	1	0	1	0
2012	1	0	0	0
2013	3	0	0	0
2014	2	0	1	1
2015	2	0	2	2

年に2個体が確認された。結実個体については、2014年に1個体、2015年に2個体が確認された(表2)。

IV. 考察

葉や花茎を齧り取るような食害は、個体に致命的な損傷を与えるわけではないが、花茎に損傷があり、5年間で確認できた結実個体が2個体のみであるため、更新に影響が出ている可能性が示唆された。また、2012年は出芽初期に地際の茎を齧り切るような食害が多く発生したためか、翌年は個体数が減少し、開花結実個体が見られない状況が確認されたため、個体群へ影響を与える可能性が示唆された。向島では、7年間の調査で食害は確認されていないが、調査を開始した2009年以前も2個体のみの生育しか確認されていない(星善男氏からの私信)ことから、更新が健全におこなわれていない可能性がある。

地際で葉や茎を齧り切った跡は、切り口の形状からネズミ類による食害の可能性が示唆された。また、葉や花茎を齧り取った跡は、葉に不規則な穴があいた形状からアフリカマイマイによる食害の可能性が示唆された。今後、センサーカメラ等により食害者を確認するとともに継続したモニタリングを実施して、生育状況を把握する必要がある。

向島では、食害は確認されなかったが、毎年1～3個体しか確認されなかった。20～30年前にも2～3個体しか確認されておらず(星善男、私信)、いずれは地域個体群が消滅する恐れがある。また、向島の生育地付近ではトクサバモクマオウなどの外来生物駆除等の自然再生事業が行われているため、生育環境の変化等に注意していく必要がある。

謝辞

本件の調査を行うにあたり、調査地の情報等を教えて下さった星善男氏、また、本稿作成に関して丁寧な御教示と御鞭撻を賜りました首都大学東京理工学研究科加藤英寿助教に厚く御礼申し上げます。

文 献

- 環境省 (2012) レッドリスト. 植物 I, 別添資料 7-⑧. http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=20557&hou_id=15619
- 東京都 (2014) レッドデータブック東京都 2014～東京都の保護上重要な野生生物種(鳥しょ部)解説版.